8月7日第24回神明の花火大会開催
夜空を彩るアーティスト「花火師」にかける想い

震災を乗り越え、花火師の道を究める

仙台市から単身、市川三郷町へ。仙台での被災を契機に、今後の自分を見つめ直した花火師・大杉しのぶさん。彼が出した答えは、花火師としての技術を究めるため本町を代表する花火製作会社の一つ「㈱マルゴー」への転職だった。33歳から再スタートを切った花火師・大杉しのぶさんに、花火師にかける想い、神明の花火大会への決意を伺った

何が起きているのか理解できなかった

大杉しのぶさん（33）は勤務先である宮城県岩沼市の花火工場で3月11日、あの忘れることのできない東日本大震災に遭遇した。

星掛けの作業中に突然襲った大地震。大杉さんはあの日の出来事をこう語った。「大きな揺れを感じたので急いで作業を中断し、同僚たちと屋外へ避難しました。地面には亀裂が走り、アスファルトがマグマのようにモコモコ動き出し、私たちに迫ってきました。目の前で起きている信じられない光景を、ただただ見ていることしかできませんでした。自分の感覚では5分以上揺れていたのではないかと思うほどの長い揺れでした」

大杉さんの働く工場は山の中にあり津波の心配はなかったため、火薬類と工場内の安全確認を行い、地震発生から2時後には工場を後にすることができた。しかし車で帰宅途中、この地震の被害状況を目の当たりにする。「思っていた以上にひどい状況で、震えが止まりませんでした」幸いにして家族はみな無事だったが、数日後、以前住んでいた南三陸町で幼なじみの一家が津波に襲われ、行方不明になっていることを知った。今も依然見つかっていない。

震災を機会に意識し始めた「死」

花火工場再開の連絡が来たのは、それから一週間後。春から秋にかけて、例年ならイベントでの花火の打ち上げや、花火の製造が最盛期に入るが、得意先

玉込め作業（球体を半分にした玉皮の内側に、火薬で作った星を並べていく工程）をする大杉しのぶさん

とは連絡が取れなくなり、宮城県や福島県の花火イベントもそのほとんどが中止。「復興支援」と銘打った県外イベントにほそぼそと参加するだけとなった。イベント以外の仕事は、ほとんど工場内の片付け。火薬庫は無事だったが、花火を打ち上げる筒はその全てが倒れ、壊れていた。「もし地震の時ここにいたら…、きっと自分は死んでいただろう」筒の片付けをしながら今まで考えもしなかった「死」というものを意識するようになった。

人々を笑顔にできる職業・花火師を目指して

学生時代、大杉さんは『職人的な面を持ち、その技術によってみんなを笑顔にする』そんな仕事に魅力を感じていた。花火師こそ自分の目指す職業だと考えた。「花火を作る仕事がしたくて、手当たり次第花火製作会社に電話をしました。時期的に忙しかったのか、会社訪問もままならず全て断られてしまいました。一度は東京に出て違う職種の企業に就職しましたが、どうしても花火の仕事を諦めきれず、26歳の時、ふるさと仙台に戻り地元の花火会社に就職しました」

土浦全国競技花火大会でのマルゴーとの出会い

そんな大杉さんに転機が訪れる。2007年、大杉さんは土浦全国花火競技大会に社長と2人で参加した。その大会で披露されたスターマインを見た瞬間、全身に鳥肌が立ったという。「夜空を彩る花火のはずなのに、その芸術性の高さに圧倒され、まるで真っ黒いキャンバスに描かれた一枚の絵を見ているような、そんな錯覚に襲われました。本当に興奮しました。凄すぎる。自分もこんな花火を作りたい！こんな花火でみんなの心に感動を与えたい」このスターマインこそ、この年の大会で最優秀を受賞したマルゴーの花火だった。

その日から大杉さんはマルゴーの花火の大ファンとなり、ある研修会がきっかけでマルゴーの斉木専務と知り合うことができた。この時、マルゴーの花火に対する想いを斉木専務に熱く語ったという。

被災を契機に自分を見つめ直す

東日本大震災はこんなにも多くの人の命を一瞬にして奪ってしまった。誰にも明日の命の保障は無い。だからこそ日々のマンネリからもステップアップしたい。花火の新作案はあっても、今の会社の状態ではそんな製作をできる余裕もない。「このままでいいのか？」自問自答の日々が続くなか、自分の憧れであるマルゴーで働きたいという想いが日々強くなっていった。しかしその反面、大きな悩みも。「みんなで頑張ろう！」と東北が一丸となっている時、自分ひとりだけふるさとを出て行っていいのだろうか…。

「悩みに悩んだ末、親や友達に花火作りを極めたいという想いを全て伝えました。両親も友達も『自分が思うことをやったほうがいい』と応援してくれました」一大決心をした大杉さんは震災から半年後の9月上旬、仙台の花火工場を退社する。

マルゴーに就職

その年の10月、大杉さんはマルゴーを知るきっかけとなった土浦全国花火競技大会に足を運んだ。今回は一人の観客として…。マルゴーの花火が勢いよく夜空に打ちあがり、花開く花火をみた瞬間、心から迷いや不安が完全に消え去った。「マルゴーで花火を作ろう！」そう決心した。一週間後、大杉さんはマルゴーの社長に手紙を書いた。「マルゴーで働かせてもらえませんか？」数日後、社長から連絡があり、面接を受けた後マルゴーに就職が決まった。震災を経て自分を見つめなおした末の、花火師としての「再スタート」だった。

あらたな地、市川三郷町での再スタート

今年3月、大杉さんはマルゴーの社員として働き始めた。「知らない土地での生活は、33歳の自分をホームシックにさせました。でも、社長はじめ職場の方、そして近所の方たちの温かい気遣いや声かけに、いつしか寂しさを忘れていました。まるで家族のように接してくれる町の方たちに元気をもらっています」「マルゴーの社員はみんなプロ意識が高く、今はマルゴーの技術に自分の技術が追いつくよう、日々勉強中です。毎日が発見で刺激になっています。一日も早く新しい花火への挑戦に自分も係わっていけたらと思っています」

神明の花火への決意

今年で24回を数える神明の花火大会。この大会は大杉さんにとっても大きな意味を持つ花火大会であることに間違いない。「自分ひとりの力では何もできません。しかし、この大会で打ちあがる花火一発一発全てに想いを込め、観客に勇気と笑顔、そして感動を与えられたらと思います」「そして、いつの日かふるさとである仙台で、人々を感動させる新作花火を打ち上げたいです。自分を支えてくれた全ての人に感謝を込め、東北の一日も早い復興を祈願して…。いつか必ず」

地場産業でつなげる「絆」

6月2日には、市川和紙工業協同組合が岩手県釜石市で「絆プロジェクト～絆を拡げて元気になろう応援隊」と銘打ち、巨大絵巻作りや紙すきを体験できるイベントを開催しました。

東北＋市川三郷町

5月27日、福島県いわき市で開催された「復興フェスティバル」。㈱マルゴーでは復興祈念花火を打ち上げ、市川高校書道部は町役場庁舎で製作した書「未来」と「絆」の２作品を出展しました。（表紙の写真は製作時の様子）

シリーズ 男女共同参画

輝く笑顔 いちかわみさと

vol.42

7年目を迎えた男女共同参画推進活動

新しい町が誕生し、市川三郷町男女共同参画推進委員会が「輝く笑顔　いちかわみさと」をテーマに活動を続けて7年目に入りました。町民の皆さまにはアンケートや川柳（標語）コンテスト、またフォーラムへの参加など推進活動にご協力いただき、とても感謝しています。

そんな中で、「男女共同参画って何？」「参画ってどういうこと？」「どうして今のままではいけないの？」そんな町民の皆さまの声が委員会に届きます。

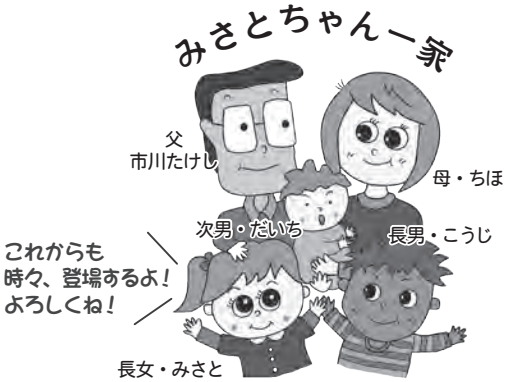
家庭で、学校で、職場で、地域社会で大切なことを決める時に、男性も女性も、子どもも若い人も年齢を重ねた人も、あるいは経験の浅い人も豊富な人も、誰もが同じように意見が言えて、同じように賛成・反対の意思を示せることが「参画している」ということです。

長い歴史の中で、例えば「男は仕事（収入）。女は家庭（家事・育児・介護）」のように、ともするとどちらか一方の性別の人に役割が押しつけられてきたような風潮がありました。これをそれぞれの家庭の中での話し合いによって、家族でそのバランスを決めていけるようになったらもっと暮らしやすくなるのではないでしょうか。

委員会では皆さまにちょっと考え、気づいていただけるような、小さなきっかけを提示してきました。それが42回にわたってお届けしている広報の中のこのコラムです。時おり登場する「みさとちゃん一家」は、今や委員会の「顔」になっています。

平成24年度、国の男女共同参画推進週間のキャッチフレーズは『あなたがいる　わたしがいる　未来がある』です。わたしたちがこれから進むべき道を的確に表している素敵なことばを、委員一同もう一度かみしめて暮らしやすさ日本一・市川三郷町のまちづくりに皆さまとともに進んでまいります。今後ともよろしくお願いします。

町男女共同参画推進委員会
会長　有泉妙子



旧三珠町・市川三郷町と推進委員として尽力した

有泉志づ子さん 県民表彰を受賞

（平成24年度山梨県男女共同参画推進事業者等表彰）

第1期、第2期の町男女共同参画推進委員会で副会長を務めた有泉志づ子さんが、長年にわたる男女共同参画推進活動が評価され、6月11日に開催された「やまなし男と女とのフォーラム」にて県民表彰を受賞しました。

有泉志づ子さんは、旧三珠町時代から男女共同参画推進委員として参画プランの策定などに関わったほか、現在でも「三珠えがりての会」代表として、地域行事でパフォーマンスを通じ男女共同参画を推進しています。

横内知事より表彰される有泉志づ子さん

消費生活ニュース
見守り新鮮情報
消費者被害から高齢者や障害者を守る

電力会社社員？点検後、財布から現金がなくなった

男性は電力会社風の服装で一人で訪ねてきた。「電力会社の者だが、ブレーカーの点検に来ました」と話し、室内に上がり「点検のため家の電源を全て点けるように」と言うので、家の電灯を全て点けて戻ると「異常はなかった」と言い帰っていった。点検票も置かず、おかしいと思い問いただすと後で送ると言われた。室内を確認すると、財布から現金がなくなっていた。

そのほかにもこんな手口が…

- ◇漏電調査の名目で器具の修理や取り換えを行い、多額の料金を請求する。
- ◇集金員を装い「電気料のお知らせ」を使い、電気料金の支払いを要求する。
- ◇口座番号、キャッシュカード番号などを聞き出す。
- ◇指定口座に振り込むよう要求する。
- ◇電話アンケートを行い得た情報をもとに、屋根の無料点検などを申し出て、その後、悪質なリフォーム工事を強要する。　など

■不審に思ったら電力会社へ問い合わせをして下さい。
■家の中を確認し盗難などの被害にあったら、所轄の警察署に届け出てください。

●困ったときは、山梨県県民生活センター☎０５５（２３５）８４５５、町産業振興課商工観光係☎０５５（２４０）４１５７にご相談下さい。

平成 24･25 年度 山梨県消費生活相談員

山梨県では、消費生活相談員として県内で 85 名を委嘱し、消費生活に関する苦情や相談を受け付けています。本町の相談員は次の６人です。お気軽に声をおかけ下さい。

- ・市瀬百合子（上　　野）
- ・村松　悦子（市川大門）
- ・遠藤美智子（市川大門）
- ・深沢　和子（岩　　間）
- ・田澤ひろ江（岩　　間）
- ・小林佐嘉枝（落　　居）

市川アカデミー 気軽に行講座

専門的な内容を分かりやすく身近に学び、より豊かな生活を

この講座は平成２年に開始され、本年度で22年目を迎えました。講座は年に7回行い、学習分野は文学・歴史・医学など多岐にわたり、多彩な講師陣がこの講座の魅力と言えます。また受講資格の制限はなく、町内外問わず誰でも受講できます。

講座は講演形式ばかりではなく、今年度は施設の見学や星の鑑賞会もあります。受講者と講師との距離が近いのもこの講座の特徴です。今年度も魅力あふれる講師の方にお越し頂きます。

会場は市川大門町民会館のほか、８月には三珠総合福祉センターで、10月には六郷の宮原の里にて開催されます。

講座名のとおり、お気軽にご参加下さい。

■今年度の日程

問町教育委員会生涯学習課生涯学習係☎ 055-272-6094

日　時	場　所	講　師	テーマ
6/21 ㈭ 19:30 ～	市川大門町民会館視聴覚室	岩瀬　英一　先生	糖尿病と生活　（終了）
7/18 ㈬ 19:30 ～	市川大門町民会館視聴覚室	鈴木　石蹤　先生	漢字の移り変わり　書のすすめ
8/23 ㈭ 19:30 ～	三珠総合福祉センター	向 山　哲　先生	食の安全について
9/20 ㈭ 13:30 ～	二葉屋	二葉屋見学	
10/21 ㈰ 19:00 ～	六郷宮原の里	深沢新次郎　先生	星を見る会
11/15 ㈭ 19:30 ～	市川大門町民会館視聴覚室	廣瀬　義仙　先生	仏教雑学
12/13 ㈭ 19:30 ～	市川大門町民会館視聴覚室	石神　孝子　先生	山梨の文化財を守り伝える

図書館 Information インフォメーション

【本　　館】055-272-8888　開館時間 9:00 ～ 17:00（木曜日は 19:00 まで）
【三珠分館】055-272-1204　開館時間 9:00 ～ 17:00
【六郷分館】0556-32-2002　開館時間［平日］正午～ 19:00［土・日］9:00 ～ 17:00
■休館日：全館とも毎週月曜・祝日・年末年始　※本館のみ月の最後の平日

今月のおはなし会 気軽におこし下さい！

■**本館** [乳幼児対象] 7 /26 ㈭ 11:00 ～ 11:30
■**三珠分館** [幼児から小学生対象] 毎週㈫ 16:30 ～ 17:00
[乳幼児対象] 7 /25 ㈬ 11:15 ～ 11:45
■**六郷分館** [幼児から小学生対象] 7/17 ㈫ 15:30 ～ 16:00

展示コーナー（本館）

「ふるさとの花火」写真展　遠藤菊水さん（市川大門）
【期間】7/27 ㈮ まで

「神明の花火」や「摩利支天祭の花火」などの花火の写真を、10 点～ 15 点展示します。

わたしの一冊

『こぐまとめがね』（作・こんのひとみ / 絵・たかすかずみ / 金の星社）

大好きなおばあちゃんが天国に行ってしまい、悲しみに心を閉ざすこぐま。感情を隠しておばあちゃんの形見のめがねをかけ続けます。ある日、転んだ拍子にめがねが壊れてしまい、ようやく声をあげて泣くことができました。失った現実を受け止めるにはとても時間がかかります。「泣きたい時は泣いてもいいんだよ。ちゃんと誰かが見守っているから」こんなメッセージがとても心に響いてきて温かい気持ちになります。大切な人を思いながら読んでほしい一冊です。（上野 /30 代 / 女性）

夏休みは図書館へ行こう

図書館は夏休み中の子どもたちを応援します！

自由研究や調べ学習に必要な本が、図書館にはたくさん揃っています。図書館司書も皆さんの勉強に役立つ本を探すお手伝いをしますので、お気軽に声をかけて下さい。
※小中高の「夏休みの課題図書」「夏休みの友・紹介図書」もとり揃えています。

夏のおはなし会　三珠分館

【日時】7 月 21 日 ㈯ 午前 10 時 30 分～
【場所】みたま児童館
【出演】耳をすませば
【内容】読み聞かせ、人形劇、工作　他

図書館まつり＆工作教室　六郷分館

【日時】8 月 10 日 ㈮ 午前 9 時 30 分～
【場所】六郷分館
【内容】絵本の読み聞かせ、エプロンシアター、フラワードール作り

町立図書館では地域の資料を収集しています

地域の資料は、町の宝物です！市川三郷町に関する資料で、ご自宅に眠っているものなどがありましたら図書館本館☎ 055-272-8888 までご連絡下さい。

福島県から避難している方へ ふるさとの情報をどうぞ！

地元・福島県の情報をお伝えしようと、福島県から地元紙『福島民報』、『福島民友』の２紙が送られてきています。図書館内で閲覧ができますので、どうぞご利用ください。

新刊図書

■一般向け

『娘・はなへ　ママが遺したいのちのレシピ』（安武千恵・安武はな / 角川書店）

がんを患った母は決めた。私がいなくなっても幼い娘が困らないよう、一人で家事ができるよう育てることに余命を使おうと…。33 歳、がんで亡くなったママが、壮絶な闘病生活のさなかに綴ったメッセージの数々。ママと娘の日記、そしてママのいのちのレシピを紹介

■児童向け

『よろしくともだち』（内田麟太郎 / 降矢なな / 偕成社）

いつもキツネやオオカミたちと仲間になりたいと思っていても、オオカミが怖くてなかなか勇気がでないコダヌキ。コダヌキがこない理由を知ったオオカミは一生懸命やさしさをアピールするが、空回りばかり。ふたりは仲良くなれるのでしょうか？『おれたちともだち』シリーズ最新刊。